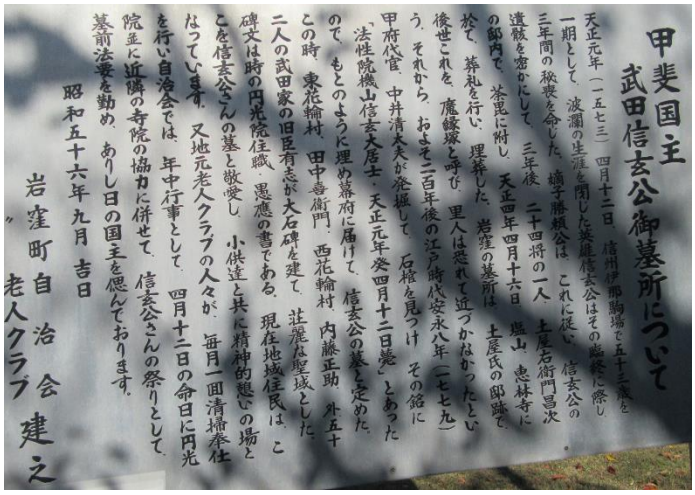

甲斐国主
武田信玄公御墓所について

天正元年（一五七三）四月十二日、信州伊那駒場で五十三歳を一期として、波瀾の生涯を閉じた英雄信玄公はその臨終に際し三年間の秘喪を命じた。嫡子勝頼公は　これに従い　信玄公の遺骸を密かにして　三年後　二十四将の一人　土屋右衛門昌次の邸内で　茶毘に附し　天正四年四月十六日　塩山　恵林寺に　理葬した。岩窪の墓所は　土屋氏の邸跡で　於て　幕札を行い　里人は恐れて近づかなかったという。後世これを　魔縁塚と呼び　それから　およそ二百年後の江戸時代安永八年（一七七九）　石棺を見つけ　その銘に　甲府代官　中井清太夫が発掘して　「法性院機山信玄大居士・天正元年癸巳四月十二日歿」とあった。ので　もとのように埋め幕府に届けて　信玄公の墓と定めた。この時　東花輪村　田中喜衛門　西花輪村　内藤正助　外五十二人の武田家の旧臣有志が大石碑を建て　荘厳な聖域とした。碑文は時の円光院住職　愚應の書である。　現在地域住民は　この碑文を信玄公さんの墓と敬愛し　小供達と共に精神的慰しの場となっています。又地元老人クラブの人々が　毎月一回清掃奉仕を行い自治会では　年中行事として　四月十二日の命日に円光院並に近隣の寺院の協力に併せて　信玄公さんの祭りとして墓前法要を勤め　ありし日の国主を偲んでおります。

昭和五十六年九月　吉日

岩窪町自治会
老人クラブ　建之

臨済宗
妙心寺派

円光院の由緒

円光院は、武田信玄公の先祖・逸見太郎清光が創建、清光院と号し、小石和に在り後　武田信守が父・信重の牌寺とし、成就院と改め　永禄三年（一五六〇）信玄公が当地に移し甲府五山の一つ円光禅院と改めた。

元亀元年（一五七〇）七月二十八日　信玄公　正室　三条夫人が五十才で逝去、

圓光院殿梅岑宗薫大禅定尼　と号す。三条夫人は京都の公家・三条公頼の次女で今川義元の媒酌で、天文五年（一五三六）十六才で晴信（信玄）公と結婚した。義信・信親（竜宝）・信之・黄梅院（北条氏政夫人）見性院（六山梅雪夫人）を生んだ。

信玄公は、天正元年（一五七三）四月十二日伊那駒場の陣中にて五十三才で世を閉じた。

その時、馬場美濃守信春に遺命され当院に刀八毘沙門天・勝軍地蔵尊の陣中守護本尊・愛用の茶器と茶釜一口武田家源氏系図を寄贈された。

信玄公の遺骸は当院門外の土屋右衛門の邸で密葬、三年後恵林寺へ改葬されたが安永八年密葬の場所を代官中井清太夫が発掘　いまに残る墓石が建立された。

碑文は当時の円光院住職が謹誌している。

以来四月十二日の忌日回向ほか供養を地元の人々と当院で営んでいる。

ワイン工場見学

インの貯蔵場

ワイン製造工程